



新年度のご挨拶

町立西和賀さわうち病院
院長・医療福祉連携室長
北村 道彦

新年度が始まりました。

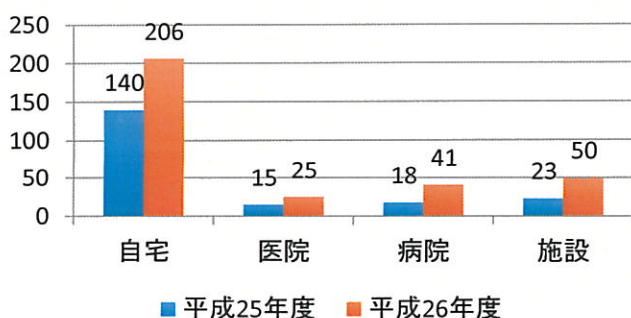
昨年度は、引越し、新病院立ち上げと、慌ただしく過ぎ去りました。そんな中で、さわうち病院の使命は、地域の医療の完結性を上げること、病院を保健・医療・介護を継ぎ目なく結ぶシームレス医療の基地にすることと考え、色々な試みを積極的に推進してきました。

10月の新病院開院後、物忘れ認知症外来、耳鼻科、泌尿器科、整形外科の専門外来の開設ができました。救急車来院患者数も大きく増え、新入院患者数は一昨年度の204名から昨年度337名と大きく増加しました。入院の内訳では、医院、病院、施設からの入院がいずれも増加し、退院も同様の傾向で、お亡くなりになる方も増えました（図を参照願います）。圏域内外の連携が強化され、地域の医療の完結性が上がったと思われます。連携先の皆様のご協力に心から感謝いたします。

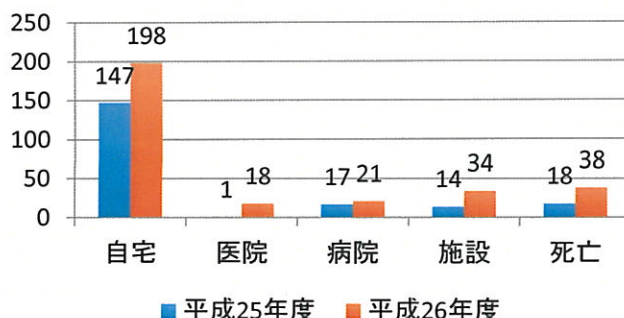
一方、医療と介護の連携に関しては、本年度4月から開始した通所リハビリテーションが大変順調に運営されています。保健に関しては、人間ドックの年齢引き下げ、病院独自の事業としての65歳を越える方の人間ドック受け入れ開始、人間ドックの検査項目に食塩摂取量測定を新たに導入することなど、保健福祉課とともに新たな事業を展開しています。シームレス医療の取組みは着実に前進しています。

本年度は深澤村長没後50年に、また、病院開院60年の節目に当たり、夏にイベントが開催される予定です。当地に、当院に綿々と引き継がれる生命尊重の文化を礎として、地域のニーズに応じ、地域に信頼される病院を目指し、職員一同努力する所存ですので、ご支援、ご協力をお願いいたします。

入院の内訳



退院の内訳





医師紹介

町立西和賀さわうち病院
内科 山下 晋平

こんにちは。ご挨拶が遅くなりましたが、平成27年4月より赴任させていただきました。病棟業務および月・木・金曜日の外来を担当させていただいております。

これまでは内科および消化器を中心に診療を行い、昨年度は県立千厩病院総合診療科で勤務しておりました。さわうち病院勤務はまだ1か月強ですが、患者さんとの会話を通して健康に関する意識の高さを感じております。来院者の健診や疾病予防への意識の高さも感じます。

高齢化が進み、今まで以上に保健、医療、福祉の連携が重要な現代だと思います。シームレス医療を展開するこの西和賀で、皆様と協力しながら地域に貢献できるよう励みたいと思います。よろしくお願い致します。



区区之心（くくのこころ）

町立西和賀さわうち病院事務長
兼地域包括支援センター所長
高橋 光世

4月からお世話になっております高橋光世です。

当院は昨年10月に新築落成・移転が行われ、今年度が新病院の実質的な初年度に当たります。また、はからずも病院開設60周年と深澤晟雄村長没後50年という節目の年にも当たり、8月には記念行事も計画されているところです。このような意義深い年に責任のある立場で仕事ができることは大変光栄なことであり、あらためて身の引き締まる思いでおります。

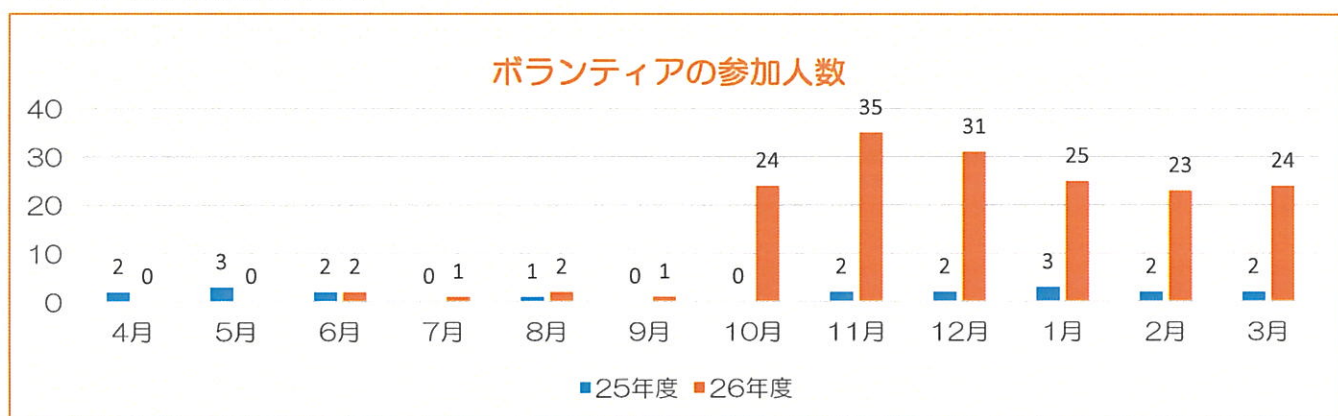
不本意ながら、目下のところ関係各位にはご迷惑をお掛けしているところではありますが、願わくは、町職員としてのこれまでのキャリアを生かし、町立病院・地域包括支援センターの根源的な使命とも言える町民の皆様の健康と安心を保持するため微力を尽くしたいと思いますので、各位のご指導ご支援をお願い申し上げます。

さわうち病院ボランティア活動の紹介

副院長兼総括看護師長 村田 純子

当院では新病院へ移転時にたくさんの方から応援をいただきました。特に眼科診察日にボランティアで患者さんの案内等をしてくださっていた方たちと昼食の時、「開院後もボランティアとしてお手伝いいただけませんか。病院が広くなり、きっとサポーターが必要だと思います。」と話したら、「いいよ!」とその場で組織化をしてくださり、月曜日から金曜日の午前中を1名~2名の方に来ていただいています。現在の登録者数は21名で、包括支援センター主催の「生活・介護支援サポーター」研修を受講した方たちです。主な仕事内容は「受付の手伝い、場所の案内、車イスの介助、廊下の水汚れの掃除」等々多岐にわたっています。「ボランティア活動日誌」にもたくさんの意見が書かれてあります。それを読ませていただき、26年度(10月以降)は14項目を改善することができました。本当に地域の方たちに支えられている病院だと実感しています。

今後の課題としましては、「病院としてボランティア保険に加入することができないか。」ということです。



平成25年度、26年度の比較

※平成25年度と開院前は眼科の診察日にきていただいていたが開院と同時に一気に活動が展開しました。

ボランティア日誌から改善できた項目 (平成26年10月~)

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1. 帰りのバスに間に合わない | ⇒患者バスの30分前倒し運用がH27年5月から開始 |
| 2. 水を飲むコップがない | ⇒カフェ風に依頼し快諾 |
| 3. 中待合に時計が欲しい | ⇒設置 |
| 4. 患者用椅子が少ない | ⇒設置 |
| 5. 自販機の場所が分からない | ⇒場所の案内を提示 |
| 6. 車椅子の不足 | ⇒病棟からの移動、寄付で対応 |
| 7. 風除室の敷物につまづく | ⇒敷物の敷き方を変更 |
| 8. 雪による床の汚れ | ⇒モップを用意 |
| 9. 玄関の屋根からの雪落下 | ⇒落雪注意掲示、設計者に連絡 |
| 10. 洗面所の水の温度不具合 | ⇒温度調整 |
| 11. バス停の時刻表に県交通の電話番号を入れて欲しい | ⇒対応 |
| 12. 廊下などの床のゴミ | ⇒箒、塵取り用意 |
| 13. 県交通バスへの乗り遅れ | ⇒バス停の標識を移動、玄関前に長椅子を用意 |
| 14. 交通バス利用の利便向上 | ⇒風除室に時計を用意 |

患者支援の観点から沢山の提案をいただき、サービスの向上につなげる事ができました。

まさに、ボランティアは「患者さんと病院をつなぐ架け橋です。感謝



通所リハビリテーションを開設

作業療法士 赤石 季枝



当院では、平成27年4月より介護保険サービスのニーズに対応するため、介護予防通所サービスのニーズに対応するため、介護予防通所リハビリテーション・通所リハビリテーションサービスを開始いたしました。1日の利用定員は10名であり、1週間のうち火曜日・金曜日の午前中のみの開催となっています。主なサービスの内容は、理学・作業療法士との個別訓練、パワーリハや書字活動などの自主トレーニング、電気治療などの消炎鎮痛処置です。

現在は、介護度が要支援1から要介護4と幅広い方々に利用していただいています。一人ひとりの身体状況を把握し、利用者の声やニーズに対応できるようなプログラムを立案すること、そして利用者がいつまでも自分らしく元気に自宅生活を送ることができるよう、サービス提供をしていきたいと思っています。

子供の絵を病院に貼りました



3/12~4/22 川舟保育所、湯本保育園の絵を貼りました。



4/22~5/21 せんだん保育所の絵を貼りました

編集後記

昨年平成26年度は、前年度に比べて133人も入院患者さんの数が増加しました。たくさん患者さんをご紹介いただきありがとうございました。

転入院には迅速に対応いたします。今年度もたくさんの患者さんの御紹介をお願いします。

医療福祉連携室 高橋

町立西和賀さわうち病院 医療福祉連携室担当 村田 純子 高橋 豊宏

〒029-5612 岩手県和賀郡西和賀町沢内字大野13-3-12

TEL:0197-85-3131 FAX:0197-85-3135 E-mail:murata7135@town.nishiwaga.lg.jp